

## 『後世に残したいラオスの伝統と文化』

ヴィライポーン テーワミット  
サンティパーブ高校（ルアンパバーン県）



世界の国々は、独自の文化を持っています。なぜならば文化は、国民にとって最も美しいものであり、それぞれの国のアイデンティティーでもあるからです。ラオスの学生である私は、ラオスの文化を後世に残したいという夢をいつも持っています。

ラオスの文化は本当に美しいものであり、ラオス国民はそれを敬愛しています。伝統慣習は何世代にも渡って大昔から、私達の先祖が創造し進化させてきたものであるからこそ、新しい世代に文化を築くことができたのであり、私は、文化は国民一人一人のアイデンティティー、また人々が発展していく原点であると思っています。なぜならば、文化は、読み書きする言葉、思考を刻み描写すること、土器を作ること、社会における人の暮らし方から表現できるからです。国を停滞させないようにするのと同じように、党や政府は、私達の文化を構築し発展させることを心がけてきました。例えば、毎年、ロケット祭、ボートレース祭、カオパンサー（雨安居入り：3ヶ月続く雨安居の開始を祝う仏教行事。多くの青年がこの時期に得度する）、ブン・パヴェート（大生経祭：従来、旧4月に寺で催される大読経祭。在家は飾りつけや供え物をする）、また、モン族やカヌー族も新年祭、といった伝統的な祭を催します。これらは私が最も誇りに思っているものであり、みんなも私と同じように考えてくれるでしょう。

また、私達の政府は、文化人の育成と文化的な村を造ることに力を入れてきました。例えば、私の村もそんな村の一つです。私の村は1998年、文化村になりました。なぜならば、私の村の人々は、絹織物、竹細工、土器、醸造、養豚といった仕事をしており、また、私達の先祖が造ったヒート・シップソーン（毎月の行事）、コーン・シップシー（人々や役人、夫婦などが守らなければならない決まり）という慣習を守り、生活の糧である自然と共に暮らしているからです。それは、外国人観光客を惹きつけ収入を増やしてくれます。

だから、その美しい文化を守り文化的な村を造るために、私達は、特に西洋文化の影響を受け入れやすい未熟な私達若者は、注意しなければならなりません。例えば以前のラオスの女性は、髪を束ね、シン（巻きスカート）を身に着け、パービエン（ストール）を肩にかけていたものですが、今ではパンツやスカートをはき、おへその見える短い服を着るようになりました。男性もまた、髪を伸ばしたり染めたり、たばこを吸ったり、お酒を飲んだり、酔って女性と遊んだりしています。私達若者が他の思考の影響を受け、私達の文化を以前より衰退させていることが明らかに分かります。

もし、できるならば、私は私達の文化を携え、世界で最も古い文化である法隆寺がある「日出づる国」や友好的な国との関係を築くために、様々な国、特に、知識レベルの高い素晴らしい文化を持つ日本と文化交流をしたいと思っています。私達の国の人々に文化を認識させ、実りが享受できるようにするためです。現在も、国の法律を犯して私達の文化を悪用する人達があります。だから、私達の文化をずっと守り、後世に残すためには、助け合って、文化を悪用しようとする者たちを防ぎ、私達の国を造るために、つまり地球が美しく豊かな文化で溢れるようにするのと同じことですが、外国との文化交流が必要なのです。

今まで述べてきたことをまとめると、文化とは精神を集める原点であり私達の文化的知識を測る物差しであり、国家つまり地球の豊かさのレベルと同じなのです。繁栄した素晴らしい国家を建設する仕事に参加し、素晴らしい文化を持ち続けることができるよう、私は、自分が文化的知識のレベルが高い人間になるために自分を磨く努力をしたいと思います。